EU Indicators

発表日:2019 年 2 月 7 日(木)

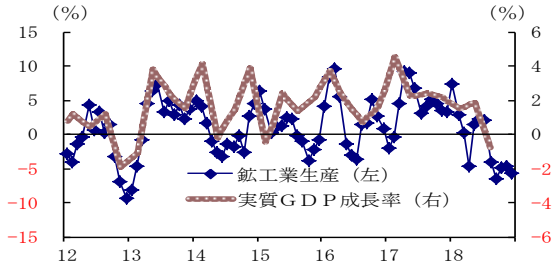
欧州経済指標コメント:12 月ドイツ鉱工業生産

～ドイツもテクニカル・リセッションへ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理(TEL:03-5221-4527)

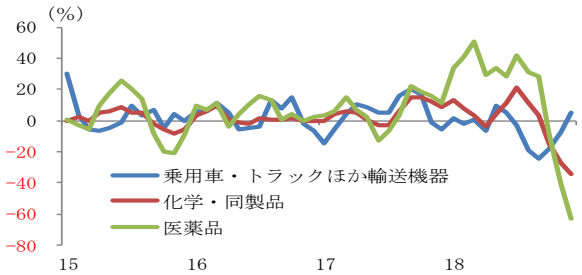
- 昨年12月のドイツの鉱工業生産は前月比▲0.4%と４ヶ月連続の減産。11月値が同▲1.9%→同▲1.3%に上方修正されたものの、10-12月期平均では前期比▲1.5%と7-9月期の同▲1.7%に匹敵する落ち込みを記録。振れの大きい建設を除くベースでは、12月単月こそ前月比＋0.2%と４ヶ月振りの増産となったが、過去数ヶ月の落ち込みが響き、10-12月期平均では前期比▲1.6%と7-9月期（同▲1.3%）から落ち込みがむしろ加速した。既に慎重化が目立ったソフトデータに加えて、１月31日に発表された12月の小売売上高、２月６日に発表された同月の製造業受注と、ハードデータの下振れも目立ち始めた。来週14日に発表される10-12月期の実質ＧＤＰ成長率は、当初小幅プラスとみられていたが、再びマイナス成長となった見込み。イタリアに続き、ドイツも２四半期連続マイナス成長のテクニカル・リセッション入りを確認することになりそうだ。
- 過去数四半期の生産活動の落ち込みは、複数の特殊要因が作用した面もある。7-9月期は新排ガス規制対応の遅れで自動車生産が大幅に落ち込み、10-12月期はライン川の水位低下により流域の化学関連施設の生産がストップした。また、10・11月にかけて医薬品の生産が大幅に減少しており、統計補足上の欠陥も含めて何らかの特殊要因が働いた可能性が指摘されている。12月は３業種ともに小幅持ち直しに転じているが、過去数ヶ月の大幅な落ち込みに鑑みると反発は鈍い。３業種を除いた生産活動は全般に低調で、1-3月期入り後のソフトデータも奮わない。景気後退局面入り確認で、ドイツでも財政出動の議論が本格化するきっかけとなりそうだ。

■ドイツ：鉱工業生産と実質ＧＤＰ成長率



注：鉱工業生産は３ヶ月移動平均、３ヶ月前比年率。
　　実質ＧＤＰ成長率は前期比年率。
出所：ドイツ経済技術省、ドイツ統計局

■ドイツ：鉱工業生産（製品別）



注：３ヶ月移動平均、３ヶ月前比年率
出所：ドイツ経済技術省

■ドイツの鉱工業生産（季節調整済み、前期<月>比、%）

	2018 1Q	2Q	3Q	4Q	2018 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
鉱工業生産	0.1	0.6	-1.7	-1.5	1.4	-0.8	1.9	-0.7	-2.3	0.9	-0.1	-0.7	-1.3	-0.4
製造業・鉱業	0.1	0.3	-1.6	-1.4	1.4	-1.0	1.9	-0.8	-1.9	0.4	-0.1	-0.5	-1.5	0.2
中間財	-0.9	-0.3	-0.9	-0.9	-0.4	-0.8	2.1	-1.1	-0.8	0.3	-0.7	-0.1	-0.6	-0.4
資本財	0.2	0.6	-2.8	-0.1	3.0	-0.8	0.7	-0.3	-3.0	0.0	0.6	0.1	-1.3	0.9
消費財	1.9	1.7	0.2	-5.7	1.0	-1.2	4.9	-1.6	-1.1	1.4	-0.3	-3.3	-4.0	-0.5
耐久財	-0.2	-0.7	-0.7	-0.9	1.6	-2.7	2.8	-0.1	-2.5	0.9	1.3	-1.9	-1.8	3.1
非耐久財	2.4	2.2	0.4	-6.7	0.8	-0.8	5.3	-1.9	-0.8	1.5	-0.6	-3.6	-4.3	-1.3
エネルギー	-1.2	-1.5	2.1	-4.7	1.1	-4.0	0.6	1.1	1.3	2.3	-5.1	-2.2	0.2	0.0
建設	0.4	2.6	-3.9	-0.6	1.4	1.6	2.6	-1.7	-6.0	2.5	2.3	-1.2	-0.5	-4.1

出所：ドイツ経済技術省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。